



日産合成工業株式会社 メールマガジン
2015・07・06 第103号



植物は、地中に根がありそこから地上に茎が伸び、茎から葉が出て、茎の先端に花が咲き、花は成熟して実になるといったイメージが一般的です。このような植物のイメージをくつがえすヘンテコリンな植物を集めた企画展が国立科学博物館 筑波実験植物園で開かれましたので、行ってきました。全部で 60 種類ものヘンテコリンな植物が紹介されていましたが、ここでは身近にありながらあまり気にも留めていなかった「バナナ」について植物園の研究员さんに伺った話を受け売りします。

バナナは「バナナの木」と言われるように、高さ数 m にもなりますが、実際には草で、その意味では正確には果物ではなく野菜（果菜）に分類されます。地上に高く伸びた茎のような部分は偽茎（仮茎）と呼ばれ、実際には、葉が幾重にも重なっているものです。茎は地下にあって短く横に這っていて見えません。この偽茎の先端からは、長楕円形の葉が大きく伸びています。



花は偽茎の先端から出て、下に向かってぶら下がります。写真中央の下に映っている錘のように見えるものが花で、今満開だそうです。偽茎の花の付け根には複数の果房がつき、各果房には 10 本から 20 本程度の果指が付きます。この果指一つ一つが一本のバナナに成長し果房がバナナの房となります。

果指は最初は下へ向けて成長し、その後を上へ向けて成長することからバナナは湾曲した形となります。写真中央の上部に果皮がまだ緑色をしたバナナがみられます。バナナは収穫後時間が経つと皮の表面に黒い斑点状のものがあらわれますが、これは「スウィートスポット (Sweet spot)」または「シュガースポット (Sugar spot)」と呼ばれ、簡単な熟成のバロメータとなります。

さて、ニッサンメールマガジン第103号をお届けします。

酪農全国基礎調査

中央酪農会議はこのほど、悉皆(しっかい)調査(全戸調査)による酪農全国基礎調査の結果を発表しました。悉皆調査の実施は、2007 年以来 7 年ぶりです。

今回の調査対象戸数は 1 万 6,524 戸で、その 99.1%に相当する 1 万 6,383 戸（北海道 6,086 戸、都府県 1 万 297 戸）から回答を得ました。ここでは経営者の年齢と担い手の確保について要約します。全体については中央酪農会議にお尋ねください(6 月 20 日現在、まだホームページにはアップされていません)。

◎ 経営主の平均年齢

全国の経営主の平均年齢は 56.3 歳で、7 年前の 54.7 歳と比べると 1.6 歳上昇していました。60 代が 34.2%で最も多く、次いで 50 代が 30.2%となっています。

地域別では、北海道は 52.3 歳、都府県は 58.5 歳と 6 歳以上の差があります。北海道は 50 代が 33.8%で最も多く、30 代と 40 代を合計すると 31.4%となりました。70 代以上は 1.6%でした。

一方、都府県では 60 代が 40%で最も多く、50 代は 28.1%でした。70 代以上は 12.1%であることから、60 歳以上の経営主が 52.1%と半数を超えています。

◎ 担い手の確保状況

「経営主が 50 歳未満」は 23.9%、「後継者あり（経営主 50 歳未満を除く）」は 27.8%でした。調査ではこの 2 つを合わせて「担い手」と定義しています。この結果、全国の担い手確保率は 51.7%で半数を超えています。しかし、地域別では北海道の 63.4%に対し、都府県では最も確保率の高い九州で 56.8%でしたが、近畿は 31.3%、北陸は 34.2%、四国は 36.8%と地域による差が大きく、全体では 44.8%と北海道に比べて 20 ポイント近い差が出ています。

一方、北海道・都府県ともに規模が大きくなるにつれて担い手の確保率は高く、経産牛 150 頭以上では 82.4%、150 頭未満では 80.6%、100 頭未満では 77.9%と 8 割前後の経営が担い手を確保しています。しかし、5 頭未満では 14.2%、10 頭未満では 17.7%、20 頭未満では 24.5%、30 頭未満では 35.8%にとどまっています。

◎ 搾乳中止予定の有無

2015～2016 年に搾乳を中止する予定のある酪農家は、北海道は 6.1%、都府県は 7.9%。北海道・都府県ともに 70 代が 20%前後、60 代は 10%程度を占めるなど、経営主年齢が高いほど割合が高い傾向にありました。

◎ 生乳生産意向

北海道、都府県をそれぞれ 3 つの規模別に分類すると、ともに大規模層ほど増産意向が強い傾向がみられました。しかし、全ての規模で 7 年前よりも増産意向は弱まり、全ての階層で現状維持意向が増加しています。北海道の 100 頭以上の規模を除き、現状維持が全ての規模層で過半数を占めています。北海道の 100 頭以上の規模では 55.2%の増産意向を示していましたが、7 年前の 66.2%に比べると、弱まっています。

◎ コメント(文責 伊藤)

規模の大きい経営ほど担い手の確保率が高く、生乳生産が高いことは、担い手(後継者)が確保できた経営は、投資をして規模を拡大し、生産意向が高まっているためと考えられます。酪農・豆知識第 100 号にも書きましたが、今年から久しぶりの大型助成事業「畜産クラスター」も始まりますので、今後この傾向が強まるのではないかと考えられます。

酪農・豆知識 第 100 号の概要および URL

おかげさまで、酪農・豆知識も第 100 号を迎えることができました。2007 年 06 月に第 1 号を発信して以来、これまで続けて来られましたことは、読者の皆様のご支援の賜物と心から感謝いたしております。本当にありがとうございました。

100号ではこれまでの細かい酪農技術ではなく、酪農経営に影響のある「畜産クラスター」事業について取り上げました。個別技術の紹介は101号から再開いたします。

畜産クラスター事業とは、畜産農家の持つネットワークを地域に広げ、ネットワークの構成メンバーと連携・結集することにより、地域における畜産の生産性や収益性を高め、生産基盤を強化することを目的とした事業です。

その概要と、飼料用イネ利用をキーテクノロジーとした畜産クラスター構築にあたって解決すべき課題について「酪農・豆知識」第100号にまとめてみました。

「酪農・豆知識」は、[当社のウェブサイト](#)のトップページにある「技術情報」をクリックし、「酪農・豆知識」のページに入るとご覧になれます。ぜひご利用ください。

お知らせ

メールマガジンへの登録・質問等

メールマガジンの配信の停止、登録内容の変更等は[当社のウェブサイト](#)のトップページにある「お問い合わせ」のページをご利用ください。

このメールマガジンへのお問い合わせ、ご意見・ご要望等、並びに技術的な問題等がございましたら、[当社のウェブサイト](#)のトップページにある「お問い合わせ」のページをご利用ください。

アドレス変更をお忘れなく

人事異動、転退職等でメールアドレスが変更になった場合で、引き続き当社のメールマガジンの配信を希望される方は、旧アドレスと新アドレス及び新所属等を[当社のウェブサイト](#)のトップページにある「お問い合わせ」のページを利用してお知らせください。配信できなくなったアドレスは、メンバーリストから自動的に削除しておりますので、よろしく申し上げます。

また、今後の配信が不要な場合にも[当社のウェブサイト](#)のトップページにある「お問い合わせ」のページを利用してお知らせください。